

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600356		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家六番館		
所在地	石狩市花川北6条3丁目16番地		
自己評価作成日	平成25年11月4日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって【楽しく元気なフロア】になるよう取り組んでいる。大きなレクリエーションを頻繁に行うよりも、一人一人の生活ペースや調子の中で、食事作りや食器拭きなど毎日の習慣になっていること、あるいはまたの生協に買物行ったり、なつかしいお菓子をみんなでつくったりなど、いつもとちょっと違う楽しいことをするというバランスを意識してケアに取り組んでいる。そうすることで、その人らしく、その人の日常の中で小さな充実と楽しさを積み上げていけると考えている。また、スタッフ間ではミーティングおよび日常的な引き継ぎの中において、介護者の価値観でケア方法を決めるのではなく、一人一人のその時の状態や思いに沿った形でのケアを行うために、情報共有と検討を行っている。事業所においては、地域行事・各関係機関への参加をスタッフ・入居者一緒に行っている。法人内では、各種委員会の定期実施および新人研修・1年未満新人フォロー研修・中堅職員研修・各種専門職研修・主任者研修・管理者研修などを実施しており、それを通じて法人の介護理念を伝えたり、職員の率直な思いを理解する場面を設けている。さらに、当事業所では毎月避難訓練を実施し、運営推進会議でも随時報告・検討を行い万一の備えを心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0197600356-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0197600356-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	● 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	● 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	● 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	● 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	● 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	● 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	● 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「共に生き、共に感じあえる」をベースに、フロアの目標として「楽しく明るいフロア」を目指している。入居者様との関わりにケアの重きを置き、担当スタッフだけでなく職員全員が工夫した支援を展開するため日々意見交換と共有を意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花壇作業やクリーン作戦などの地域活動にスタッフと入居者様が一緒になって参加している。また、地域の祭りやイベント、ちまたのちょっとした店(たいやき屋や豆腐屋、生協など)への買物を通じて交流を日除的に図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談だけでなく、10年後20年後を見据えた施設探しや在宅介護で困っていることなど、介護にかかわる全般的な相談に対しても随時お聞きしている。また、グループホームや高齢者専用住宅とはどのような場所なのかの講演依頼も受け地域に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	会議では写真を通じてホームでの日常風景やイベントの様子をお伝えするだけでなく、季節・衛生・地域情報・認知症の学びなどを交えて展開している。認知症の学びについては、ご家族様の率直な質問や相談をみなさんでシェアする大変貴重な機会となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で包括・高齢者支援課の職員さんが参加されており、また、石狩市の総合保健福祉センターりんくる内に包括・高齢者支援課・社会福祉協議会があるため、何かと用事あれば同時にいろんな件を相談できるような関係性が密にとれている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修だけでなく、ミーティング時に身体拘束抑制廃止虐待防止推進委員会(法人内委員会)の委員からの周知より学びを深めている。施錠、4点柵、ミトンなどの身体拘束は明らかにやっではないことはイメージできている。基本は、自分がそれをされたらどう思うか、立場を自分に当てはめて考えることだと思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6と同様に、委員からの周知を行っている。また、フロア内ではスタッフ同士がもしそのような場面・・・虐待という大きなことではなく、日常的な言葉かけや対応などの不適切な点に気づいたら、お互いが注意・指摘しあっていく必要性をリーダー中心となって呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用する場面がない。今後、具体的な事案が展開される際に制度の存在と内容を知ってもらおうと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書および入居にあたっての留意事項などを一項目ごとに説明し、不明な点は後日でもご相談していただいている。退居時は修繕、退居後のフォローを確実にするため対象機関とご家族様とのやりとりを最後まで細かく対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見については、運営推進会議の中でご報告、あるいはご家族様が来訪時に書面を踏まえてお伝えしている。その中で、ホーム全体が対応することなのか個別に対応することかの具体的結論には至るが、まず意見がしっかりと表出できる関係性をもつためにも、頂いた意見を踏まえ聞いてみるアクションをとっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様について、スタッフについて、業務についてなど、スタッフからの率直な意見をフロアリーダーが取りまとめ、定期的に管理者とすり合わせを行い、月に1～2回行っているフロアミーティングで具体的方向性を定時し、同時に生のスタッフの声を聞いたうえで調整するやりとりを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の今年の大きな動きとして、介護職員処遇改善加算の算定や年数に応じた給与のベースアップを行い始めた。ホームとしては管理者によるラインケアの理解を深める研修を行うとともに、スタッフとのやりとりやささいな言動・表情から本人がどのようなことに不安を抱えているのか、どんなことを職場に求めているのかを具体的に引き出す努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修および外部研修の機会があれば、職員が積極的に参加できるようシフト調整を行っている。受けるだけでなく、参加していないスタッフにむけてのフィードバック報告をフロアミーティングで行っている。そうすることで、受けた自身の学びもより深まる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市で定期的で開催している地域ケア会議への参加や、いしかり医療と福祉のまちづくりひろばの定期会議にも参加し、同職種間との交流を行っている。そのおかげで、入居相談や介護相談を同職種から受ける場面も多くなってきた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが事前に本人、ご家族様から入居にあたっての不安・要望を聞き、フロアスタッフでカンファレンスを行い共有し、入居者様の生活に不安のないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から以前の生活での困りごとなどを聞き、ホームでの生活における対応に活かし、ご本人様との信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部サービスの利用は行っていないが、一芸ボランティアさんの訪問が同建物内の小規模多機能サービス事業所で催される際は一緒に参加し、一緒に楽しんでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方は皮をむいたり切ったりなどの食事作りや食器拭きを手伝ってもらい、ゴミ箱作りなども共にしてもらっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状をご家族様に常々伝え、以前の本人の生活のことや性格などを聞き、またアドバイスしてもらいケアに活かすなど、ご家族様がホーム職員とともに取り組んでいく関係が作れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状ADLがしっかりしているかたはご家族様協力のもと馴染みの場にいけているが、ADLの低下に伴いいけていないケースは多い		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂あるいは居室で入居者様同士が談話していたり、みんなで外出レクをするなど他入居者様同士も楽しめる環境をつくってきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養病棟へ移ったり、入院先で死去されるなどが主に契約終了のケースであったが、その後もご本人のところに会いに行ったり、ご家族様にホーム生活時の写真をお渡しに行ったり談話もするなどを通じ、心の部分でのフォローを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様とのコミュニケーションを通じ、希望や以降の把握には努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の収集・ご本人様・ご家族様との面談・生活をしながら馴染みの暮らし方を知る努力を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務者から次の勤務者への申し送りを通じ把握。必要時は随時カンファレンスを行い周知を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様の状況にあわせ、ご本人様・ご家族様・必要関係者と話し合いはできている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入、申し送り、定期的なカンファレンスのほか、必要時個別カンファレンスを実施し見直し実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時柔軟にカンファレンスを行い、サービスを展開している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	石狩市、各関係事業所(他施設や病院など)の行事参加や、ちまたの店の利用など積極的におこなっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様、主治医と常に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場での看護師配置、および訪問看護師の訪問は行っていない。だが、かかりつけ医の往診時に情報共有していること、また、日常的にいつもと違う入居者の状態があれば、かかりつけ病院への電話相談および通院を行っている。医療的視点からのケア留意点については、特に詳細を聞きフロアスタッフに周知している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、定期的に面会に行った際本人の状態をさりげなく観察するとともに、病棟職員さんに病状・食事状態・ADLの状況などについて最新情報を聞き、その後面会に行ったものは他スタッフに伝え情報共有を図っている。ソーシャルワーカーさんとのやりとりは、地域ケアにおける取組みの相談など通じて密である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看護師がいないことから、看取りを実施していないことや、常時医療処置が必要な場合はホーム生活難しいことをお伝えしている。特に、入院しなければならぬ場合や、だんだん本人の食欲状況が減退しはじめてきた際は、ご家族様の不安を受け止めながら説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、手順を踏んで状態観察すること、および救急車要請も落ち着いて電話できるよう練習し、フロアにはマニュアルも備えている。今後は、消防署で毎月実施されている普通救命訓練講習にも毎年参加して、緊急時対応を忘れぬよう訓練していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で防火管理委員会があり、各事業所の火災時避難訓練の様子を動画で観覧・検証し学びを深めている。当施設では4月より毎月避難訓練を実施し、今年はずでに6回実施している。スタッフが学ぶだけでなく、入居者・地域の方も一緒になって取り組み意識を高めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子供扱いする言葉かけや物あつかいするような声かけをしないことはもちろんのこと、本人の生き方やポリシーに対し、たとえ認知症の症状が進んでいたとしてもご本人の大切にしているその部分については十分配慮する		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンをうまく使い分けて本人の要望を引き出すよう努めている。認知症が進んでしまい、自分のやりたいこともよくわからないような場合でも、日々の様子や性格・生活歴などから、やってみると充実するようなものをおぜんだてすることはケア者にとって大切なことだと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースやスタイルは違っているため、食事や外出などできるだけ一緒に行ってもらふこと以外は、極端に不規則な生活でない限りご本人のペースで休息・余暇を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目にタンスの衣服の衣替えをご家族様をお願いしている。日常としては、外出しない日の格好がいつもと変わりばえしなかったり、肌着（シャツやズボン下）についてうまく合わせていない場面も見受けられるかと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭きは日課になっており、それぞれやっ区割りを持って頂いている。また、材料の下ごしらえや盛りつけも楽しくされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のニーズに沿った食事形態を取っている。水分摂取は本人の好みのものを取り入れたり、ゼリーにするなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯をされている入居者様には、毎食後洗っている。お声かけするが負担を感じる方は朝と夕食後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でトイレでの排泄ができない方については、3～4時間に1回トイレ誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた活動機会をつくり、散歩や体操をし身体を動かすなどしている。また、食物繊維のある食材を献立に盛り込んでいる。毎日乳酸菌飲料を摂取している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や入浴するか否かの確認を行って入浴して頂いている。1人当たり週に2回の入浴をおこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を確認した上で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は通院担当者から上方を聞いている。薬の作用や留意点を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに合わせて買物へ一緒に出かけたり、また洗濯をスタッフとするなど役割をもって生活していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「ちょっと飽を買いに行きたい」「近くの娘の家に行き行って飼犬に会ってきたい」など、身近にいける範囲であればその日のスタッフ体制をみながら行けるよう計画をたてている。また、ご家族様から「今度本人と一緒に～へ外出させたいのだけど」というお話も遠慮なく行っていただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に金庫など施錠できるものがないため、基本的にホーム事務所にてそれぞれ預かり金を預かっている。そこから、ご本人が希望するもの、必要とするものを購入している。買物外出時には、本人方に一定額が入ったお財布を渡し、できるだけ本人が買いたいものを尊重した買物ができるように配慮する時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会社の電話からもご家族および親戚が直接ご本人と電話できるように対応している（実際はご本人方の耳が遠いので、うまく電話やり取りできない場面もある。）また、御親戚の方から定期的に絵葉書が届くこともある。ホーム側としては、毎月ご家族様向けに【ハート便】という、本人の日常生活様子がわかる写真と担当者のコメントを記載した新聞を送っており好評をいただいている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護者が業務として行ってしまう掃除機や調理の音、打ち合わせの話し声など、認知症をお持ちの入居者にとっては不安を増長させてしまう大きな原因であるため、その音に配慮することはもちろんのこと、逆に、流れて一緒に歌いたくなるような懐かしい曲をかけたり、季節が感じれる掲示物、最近行ったイベントの写真の掲示するなど、空間への配慮は今後も意識して対応していきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席配置は極端なチェンジをせず本人方の定位置をつくっている。また、フロア内ではソファが3か所あったり、入居者同士が畳でくつろげる場所があったりなど。食堂以外でもご本人らしく余暇を過ごせるよう空間に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居初期のころは、ご本人の馴染みのものを居室内にいろいろセッティングはする。一方で、ご入居されてしばらく経つとあまり変わり映えていないのが現状。少しずつでも、ホーム生活における思い出が写真や物として居室内に掲示されたり。ご家族様に昔の写真や思い出の品をさらに少しずつもってきていただくことは必要かもしれない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	【トイレ】【ごみばこ】【呼び出しボタン】などのフダを掲示し視覚に配慮することはもちろん、耳が聞こえない方が多いこともありコミュニケーションにおいては表情とジェスチャーを大胆に意識して、入居者がわかって安心できるよう配慮している。		